

## 目次

### 記事

\* グローバルリーダーシップ研究所が新設されました …1

\* リーダーシップ理論研究会第 1 回勉強会を開催しました …2

### 本の紹介…2

中林美恵子 著

『グローバル人材になれる女性のシンプルな習慣』

#### 【お問合せ先】

国立大学法人お茶の水女子大学  
グローバルリーダーシップ研究所  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1  
人間文化創成科学研究科棟 506 室  
Tel/Fax: 03(5978)5520  
E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp  
URL: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/>

#### 【Contact】

Institute for Global Leadership,  
Ochanomizu University  
2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo,  
#112-8610 JAPAN  
TEL/FAX: +81-3-5978-5520  
E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp  
URL: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/en/>

### グローバルリーダーシップ研究所が新設されました

2015 年 4 月、本学のミッションであるグローバル女性リーダー育成機能を更に強化するため、「グローバル女性リーダー育成研究機構」を新設いたしました。これまで本学のリーダーシップ養成に関する研究及び教育の拠点であり、男女共同参画推進の実施組織であるリーダーシップ養成教育研究センターを発展的に改組し、「グローバルリーダーシップ研究所」として、グローバル女性リーダー育成研究機構内に設置いたしました。

本学は、140 年にわたる女子高等師範学校以来の伝統を現代に生かし、グローバルな視野をもって多方面に活躍する女性リーダーの育成を使命としております。このようなリーダーを育てるために、本研究所では、カリキュラム開発を進め、リーダーシップ育成を目的とする科目群を設置するとともに、学生海外派遣プログラムの実施、リーダーシップに関するシンポジウム、講演会の開催をはじめとするさまざまな事業を行っています。また、キャリアアップを目指す社会人女性を対象とした生涯教育講座も実施しています。これらの実践とあわせ、国内外の教育研究機関等との連携を強めながら、今日の社会経済的な状況、国際的な動向に対応する女性リーダーシップ論並びにその育成にかかる理論研究を展開してまいります。

また、本研究所は、本学が全国に先駆けて設置した、男女共同参画を推進する全学的組織である男女共同参画推進本部の実働組織になります。本学では、女性研究者支援の取組を進めるとともに、ダイバーシティが尊重される社会の実現のために、男女問わず多様な働き方が可能となる職場の環境づくりに取り組んでおります。このような女性研究者支援、雇用環境整備の実績を踏まえ、教育研究機関の雇用環境整備評価指標を開発し、お茶大インデックスとして発信しています。また、2012 年度からは、本学独自の特別研究員（呼称：みがかずば研究員）制度を導入し、優れた女性研究者の継続的な研究活動や研究中断後の円滑な復帰を支援しております。

本研究所は、女性リーダーを育成して、女性の国際的、社会的活躍を促進、加速させるとともに、国立の女子大学としての本学の使命である男女共同参画社会の実現に寄与してまいります。

文責： 塚田 和美（グローバルリーダーシップ研究所長）



2015.7.30 第 1 回勉強会の様子

## リーダーシップ理論研究会 第1回勉強会を開催しました

2015年7月30日(木)15~17時、大学本館にて、本学のリーダー育成・リーダーシップ教育の実践や理論研究の交流を進めることを目的とした勉強会を開催し、本研究所のスタッフを含む教職員27名の参加がありました。今回は「migakazuba バイブル」策定過程の確認、学内の各センターなどで行われているリーダーシップ養成に関わる教育プログラムや取組について紹介があり、最後に参加者全員で議論しました。

宮尾正樹教授によれば、「migakazuba バイブル」策定のきっかけは、2008年に戸谷陽子教授が世界女子大連盟の学生リーダー会議で聞いた“Be the leader that inspires”(Mt. Holyoke CollegeのVandenBerg氏の言葉)にありました。翌年には学生参加のワークショップで「migakazuba バイブル」の原型ができ、普及のための取組が検討・実施されたこと、本学の教育全体がリーダーシップ養成でありその中にリーダーシップ養成科目を設置すること、現在もキャリアデザインプログラムに「migakazuba バイブル」のコンセプトが受け継がれていることが説明されました。続いて戸谷教授から、世界女子大連盟の学生リーダー会議について説明がありました。その会議の特色として①具体的な方法論、②スタッフの専門性の活用、③強固なフェミニズムの枠組の3点を挙げ、アカデミックな知識体系に基づいたカリキュラム作成・編成の重要性を指摘しました。3番目の登壇者、望月由起客員准教授からは、本学のキャリアデザインプログラムの展開と今後の課題について説明がありました。2006年に「キャリアプランとライフプラン」が新設されロールモデル講演が行われるようになり、その後、女性リーダーのためのコンピテンシー開発・評価プログラムの作成へと発展・拡大していきました。4番目、グローバル人材育成センターの石田安実特任准教授からは、英語によるサマープログラムやGREAT-Ocha、女性のグローバルリーダーシップに関する国際サミットなどの説明がありました。石田特任准教授は「リーダーシップの意味は社会との相関関係で生まれる」と述べ、リーダーシップの意味とキャリア形成における位置づけや、グローバル化におけるアイデンティティの多様性への言及がありました。5番目の教育開発センターの半田智久教授からはPBTS(Project-Based Team Study)とシンボリックリーディングについて説明がありました。PBTSはリーディング大学院のメインプログラムで、PBL(Project-Based Learning/Problem-Based Learning)と比較しながら、その現状と課題について理論的な説明がありました。最後の登壇者、アカデミック・プロダクションの砂田薫特任准教授からは、博士後期課程の女性リーダーの輩出、いわゆる出口戦略について、キャリア形成の伴奏とイノベーション教育、特にアントレプレナー教育という観点から説明がありました。

後半の質疑応答の時間では様々な意見、質問が出ました。たとえば博士後期課程の学生の出口戦略や、博士後期課程進学者の減少と少子化との関連性、企業、大学、学生の意識の変化などについて意見、質問がありました。

また本学の女性リーダー育成の使命やリーダーシップ教育全体のカリキュラムについて、教員の認識・理解、「リーダー」や「リーダーシップ」の多義性とその模索、ジェンダーの視点や教育分野の専門的知識に基づいた女性のリーダーシップ養成プログラムの可能性、キャリア教育との関連性、イノベーション教育とアントレプレナーシップ教育との相互関係や学生への周知などについて、各部署の担当者から様々な意見が出ました。

最後に、グローバルリーダーシップ研究所長の塚田和美教授、大木直子特任講師から、「キャリア教育やリーダーシップ教育、グローバル人材の育成に関わる部署はプロジェクトベースであることが多く、大学は継続的にそれらのプロジェクトを展開する可能性を探ることが重要ではないか」、「学生に大学の取組を示すことができるように、リーダーシップ教育について議論を続け、その体系を作り上げていくことが重要」、「お茶大生は、部活動やサークル活動、ゼミなど日常の場面でリーダーとなる機会に恵まれていると学生にアピールすることで、より身近にリーダーシップ教育を考え、伝えることができるのでは」、「研究者としてのキャリア教育や、キャリアデザインプログラムの単位認定をより充実させることができるのでは」といった提言が出されて、盛会のうちに終了しました。

文責：大木 直子 (グローバルリーダーシップ研究所特任講師)

(第2回勉強会は10月15日に実施。第3回は2016年1月末に実施予定)

### 本の紹介

中林美恵子 著

『グローバル人材になれる女性(ひと)のシンプルな習慣』  
PHP 研究所 2012年9月7日発行

昨今、色々なところで「グローバル人材」という言葉を耳にすると、皆さんはこの言葉からどのような人物を想像しますか? 「グローバル人材」になるためにはどのような勉強をすればよいのでしょうか? 今、どんなことをしたらよいのでしょうか? 本著はこうした疑問を持っている人、グローバルな環境で活躍するための方法が分からない人、海外での仕事に興味はあるけれど最初の一步を踏み出す勇気が出ない人などにおすすめの一冊です。

著者の中林美恵子氏は、日本人初のアメリカ連邦議会上院予算委員会の国家公務員として約10年間勤務し、現在は早稲田大学のグローバル・リーダーシップ・プログラムのアソシエイト・ディレクターとしてグローバル・リーダーの育成の先進的な取組を進めています。本著では、中林氏のアメリカでの貴重な体験談からグローバルに活躍するために今、習慣として身に付けておくべきことについてまで、分かりやすく解説されています。

中林氏は当研究所キックオフシンポジウム(詳細は<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/2015kickoff/>)にもパネリストとして登壇する予定ですので、ぜひシンポジウム前の予習を兼ねてご一読ください。

文責：小松 翠 (グローバルリーダーシップ研究所特任講師)